

「社会保障・税一体改革」をやめさせ、応能負担で社会保障の拡充を！

ほっかいどうの社会保障

2012年2月20日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

介護職も利用者も家族も皆一緒に幸せになろう！

ヘルパーサービス削減やめて！2.19介護集会



2月19日(日)、「えッ！生活援助45分で何ができるの？！ヘルパーサービス削減やめて！2.19介護集会」が、札幌をはじめ釧路や根室、北見、名寄、旭川、黒松内、苫小牧などから150人が参加して行われました。集会では35の切実な事例集も配布されました。

ドイツでは利用料無料、看護師と同給与

櫻井和代さん(要介護者の暮らしを考える会代表世話人)が「生活援助は訪問介護の第一私達は訪問介護時間の削減に反対します」

と題して講演を行いました。世界の介護労働者の状況に触れ、「ドイツの介護保険は利用料無料。介護労働者は看護師と同じ教育課程も受け賃金も変わらない。困難が今のままずっと続くのではなく、私達の運動で改善できる」と強調しました。生活援助の短縮など介護報酬改定の訪問介護分野の問題点を指摘した上で、介護の基本ニーズがどこにあるのか見極め、自分たちの政策提言と国民共同の運動をつくりだしていきましょうと呼びかけ、「明日(20日)も厚生労働省と懇談するので、みなさんの声も届けたい」と報告しました。

参加者に書いてもらった厚労大臣宛の要請ハガキは131通。集会後「これ以上いじめないでください」「ヘルパーはロボットではありません。愛のある介護がしたい」「利用者は人形ではありません」など記載されたハガキを櫻井さんに手渡しました。櫻井さんは「厚労大臣に直接渡します」と預かってくれました。

「利用者さんから、短縮されたら、生きていけなくなるとの声も」

シンポジウム「生活援助削減でどうなるか」では、訪問介護ヘルパーさんから「一人暮らしの高齢者の利用者の様子がいつもと違うことに気付いたことがあった。幸い医療機関の受診につなげ軽い脳卒中だったため3週間の入院ですんだ。時間が短くなり今以上にあわただしくなったら気づけないのかも」、利用者の家族は、「認知症の重い家族は、昔のいい思い出が話題になると生き生きする。話をしてほしい」、介護事業所の代表は「利用者がその人らしい生活をさせるのが介護だと思います。時間の短縮には反対です」と発言しました。

フロアからの発言も相次ぎました。釧路から参加した登録ヘルパーさんは「参加できなかった職員や利用者の声をポスター(写真)にまとめてきました。利用者さんからも『生きていけなくなる』との声が寄せられています。私達は住み慣れた家で元気で一日も長く過ごしてほしいと生活援助をし、利用者さんから『あなたがくるのが待ちどおしかった』などといわれることを誇りに感じています」と涙ながらに訴える方もいました。



最後に、利用を削減される人、そもそも介護制度を利用できないでいる人もいる、介護制度の抜本的な改善をさせるため、力を合わせていくことを確認し合いました。

参加者の感想文から

- 「ヘルパーの怒りの声を代弁してくれる講演でした」「今でも時間が足りません」「事故が心配です」「お金のない高齢者は人間ではないのでしょうか」「認知症の方にはコミュニケーションが大切です」
- 「ヘルパーどうして話しあう場所がない。一人で悩んでいます」「人手不足」「低賃金」「生活大変です」
- 「新聞を見て参加しました。たくさん問題があります。学習会をしてほしいです」
- 「あきらめずに声を出していくことが必要」「力をあわせましょう」

介護報酬改定案へのパブコメの締め切りは24日です。

詳しくは、<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495110353>

3月3日「ストップ消費税増税！増やせ社会保障！」パレードへ参加しましょう

集合 13時30分

自治労会館大ホール(北6西7)

パレードは大通公園まで